

所属・資格 心理学科・教授

申請者氏名 坂本 真士

研究課題		「新型うつ」に関する臨床社会心理学的研究（2）
報告の概要	研究目的 および 研究概要	日本では新型うつは従来の抑うつよりも否定的なイメージをもたれているが、個人主義的とされるアメリカでも同じだろうか。新型うつの特徴（例：自分の快の追究を集団よりも優先させる）は、個人主義の国では問題化しにくいかもしれない。そこで、アメリカ人学生( $N=182$ )と日本人学生( $N=262$ )に対して、新型・従来型の抑うつ罹患者に関する記述（case vignette）を読んでもらい、質問紙によってイメージを測定し、新型と従来型のイメージを比較した。
	研究 の 結果	イメージを測定した項目に対し、国(日・米)×抑うつ(新型・従来型)の $2\times 2$ の分散分析を行った。その結果、多くの測定変数で抑うつの主効果が見られ、国を問わず、新型うつに対するイメージの方が否定的であった。また、いくつかの項目では有意な交互作用が見られ（例：嫌悪的な態度、サポートの供与意図）、新型うつに対する否定的なイメージへの偏りは日本の方がアメリカよりも強かった（嫌悪的な態度 $F(1, 433) = 25.75, p < .001, \eta^2 = .06$ ；サポートの供与意図 $F(1, 437) = 19.89, p < .001, \eta^2 = .04$ ）。
	研究 の 考察 ・ 反省	日米を通じ新型うつへのイメージの方が否定的である点は共通していた。しかし、否定的に認知する強さは、日本の方が強いことが示唆された。Kato et al. (2011)に報告から、新型うつと思われる事例は日本以外にもあると思われるが、新型うつはアメリカでは日本よりも寛容なため、事例化しにくいと考えられる。新型うつに対してより寛容な捉え方をするために、個人主義的な価値観は示唆を与えるかもしれない。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所  研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。 なし	